

3つの課題について

課題1「市民がより参加しやすい講座やテーマ、講座を支えるサポート体制」について。

【市民アンケート調査（Q3）について】

- ・公民館がどのような施設なのかを知らないという回答が多かった。講座についての問題以前に、公民館は社会教育の施設であると知らなければ公民館を公民館らしく市民が利用できないのではないか。
- ・公民館がどのような施設か知らないという回答が多いのは、「公民館へ行ったことがないのでよくわからない」という人と「公民館が社会教育施設だということを知らない」人が混ざっているからではないか。
- ・公民館は単なる貸館ではなく、市民を旺盛にサポートするための施設であることをもっとアピールするべき。
- ・この設問は公民館を利用したことがない方に対しての問いであるため、全体としては思ったよりは知られているし、予想より遥かによいと肯定的に捉えている。
- ・この Q3 の項目に今後の課題が多く含まれている。
- ・参加してみたい講座や活動がないというのはとても大きな問題だ。広く意見を求め、公民館に来ていただけるように考える必要がある。
- ・回答者の年齢者層を見ると偏りが見られる。より広い世代からの声を反映できるアンケート方法を考えていくべきだ。

【「市民がより参加しやすい講座やテーマ、講座を支えるサポート体制」に対し具体的な意見はあるか。】

- ・ほとんどの講座で定員を超えているが、若い世代等のニーズに答えられていない。
- ・企画員制度は、まだ続いているのか。
(公民館：企画員制度を受け継いで現在講座ボランティア制度を設けている。全体会議は年に5回開いている。ボランティアに講座の担当をしていただき、担当職員と共に綿密にメールでのやりとり及び講師の選定等を行っている。)
- ・講座ボランティアもわかりやすくカテゴリーごとに検討してもらい、検討中の講座のコラムなどを公民館だより等で発表し、頻繁に発行すれば皆さんに関心を持ってもらえるのではないだろうか。
- ・講座ボランティアの仕組みの見直しがこの課題に関係してくるだろう。

課題2「公民館利用団体の育成とサポート」について。

・今まで公運審が直接支援をしたことはない。何か例はあるか。

(公民館：平成25年度から利用者懇談会を始めた。利用者団体同士でのワークショップを行ったところ好評であった。そういったことが次につながるということについては確かな手ごたえを感じている。)

・委員と利用者団体の話し合いを行う場を設ければ利用者の声を反映できる。

(公民館：今後、公運審が利用者の声を肌で感じていただける場を作っていけたらと考えている。)

・団体の育成ということで、人数が少なく規模の小さな団体へ館や公運審から類似団体を紹介するといった支援をすれば団体の輪が広がる。

・館側で相談コーナーを開設し、指導できれば支援の1つになる。

(公民館：職員は利用者が困っていれば手助けしたいという姿勢でいるが、更にそういった努力をしていく必要がある)

・70年代などは講座からの自主サークルの設立が盛んだったが、最近はどうか。

(公民館：市民講座の最終的な目的は自主サークルの設立であると認識している。平成26年度に萩山公民館で団体が1つ設立し、活動している。

今年度については写真講座の「写ラク」から団体が設立された。(公運審後)

他に、地区公民館でサークル団体の講師を招いて4講座を行っており、講座参加者がその後その団体に参加するという例等もあった。)

・ハード面に関しては問題も解決できている。利用者懇談会などでサポートを行い利用者団体の主体性・創造性を育成していけばよい。

・利用者懇談会で公運審と共に支援の方法を考えていく仕組みが必要だ。

・公民館を活性化するには、若い年代との連携という面で学校教育の施策とどのように連携していくか考えていかななくてはいけない。

・将来の利用者となる子どもたちに、補習をする場所を設けられたらいい。

(公民館：中央公民館の2階のフリースペースを夏休みの中高生の学習の場として使えるよう市報等でお知らせしたところ、夏休み前から高校生も来るようになった。年齢差のある方が使っていただくには公民館は最高の場所であるため、これからも子どもたちの居場所づくりに取り組んでいきたい。)

・フレッシュコンサートのような若手の発表の場を伝統的にやり、いろいろな方たちが来られる開放型のものも考えていて素晴らしい。

課題3「市民文化の育成とより一層の発展を目指す取り組み」について。

・市民文化というと、カルチャーについては様々な団体があるが、そういった団体は市全体の文化だと思う。公運審・公民館がどのように連携を作っていくのかというのはこれからの事業運営としての課題だ。

・他市では公民館祭があるが、東村山は社会教育課が市民文化祭を行っており公民館は手持無沙汰に見える。公民館主催の行事が欲しい。

(公民館：公民館主催の行事がないことは課題の一つと捉えている。しかし、突然公民館祭を開催しても、伝統的なこともあるので、なかなか受け入れられるのは難しいと考える。)

・青少年の育成は、実際どこでやっているのか。

・男女共同参画や多文化共生に関しても公民館では何もやっていない。そういった縦割りの弊害がある。

・文化祭のレベルが高すぎて出品できないと聞く。市民文化という観点から考えると、様々なレベルの作品が共存できる場があればよいのでは。

・かめのご学級のブースを市民文化祭の中に設けてはどうか。

・毎年、障害者の方を対象にした成人式のような様々な行事を積極的にやっていただきたい。市民文化祭のブースは取り合いになることもあるので、別に展示会を設けてはどうか。そこにかめのご学級の制作物の展示はできないか。

(公民館：最近では学級生の体力低下が主な課題となっており、体を動かす授業等がメインになっている。作品制作はあまり行っていない)

・広い意味の文化だと思うのだが、今年4月から障害者差別解消法が施行された。公民館では情報保障などをどこまでしてゆくのかまだはっきりしていない。経験を積み重ねながら合意を作っていくのだと思うが、「市民文化」ということで障害のある人への合理的配慮と絡み、何が文化なのかを考えた方がいい。

・東京都の規定では公民館主事というものがある。公民館主事というのは、公民館のベテランのことで、何をもって公民館主事とするかは行政側で決めることができるそうだ。社会教育主事を配置するのは難しいとしても、公民館主事を配置することは発展につながるのでは。

・館長をはじめ、職員と公運審は対等であるべきだ。公民館職員としての経験を積んだスペシャリストが公民館主事になって、その経験からより発展的なアドバイスを利用者の方にもできたらよい。

・民間企業ではスペシャリストとゼネラリストとで分けて処遇も考えてある。皆がローテーションしていたら体質が弱ってしまう。

(公民館：他市では公民館に社会教育主事を配置したところもあり、2、30年と勤務をしていた方がいたが、ここ数年で最後の人が退職してしまった。公民館に力を入れていた時代が終わったのかなと感じることはある。)

- ・都公連でお話を聞いた際に、公民館の意義は「公民館で学習したことを引っ提げて地域へ飛び出していく市民を作ること」と言っていた事が強烈だった。公民館は、活動的・能動的な市民を作るところだと思う。
- ・課題3というのはそういったリーダーを公民館で育成するという事なのでは。そうでないと地域が発展しない。